

## 平成27年度組織目標中間評価シート

部局名： 畜産技術振興センター

番号	目標項目	目標値・目標の内容	進捗状況 (目標の達成状況および 達成に向けた取組の実施状況等)	年度末 達成見込	目標達成が困難 と見込まれる場合の原因	今後の対応方針 (目標達成に向けた取組および スケジュール等)	知事または 副知事からの 指摘・指示 への対応
1	近江牛の生産基盤の拡大	子牛生産頭数 100頭 子牛育成技術の向上6月齢体重 雄:210kg以上 雌:180kg以上	子牛生産頭数 37頭 6カ月齢時体重 雄:219.2kg (平均) 雌:186.9kg	○		周産期事故を防止に務めるとともに、引き続き適切な哺育・育成に取り組む。	
2		和牛受精卵供給個数100個 受胎率 45%	和牛受精卵供給個数 39個 受胎率 36.4%	○		受精卵の品質ならびに受胎牛の状態等を見極めた上、受胎率向上対策に取り組む。	
3		放牧地における分婯管理と子牛哺育育成技術を確立します。	場内に放牧地を整備し、技術検証の体制を整えた。	○		10月より放牧を開始し、子牛の馴致技術効果を検証する。	
4	飼料の県内自給の強化	①生米ぬかと玄米により飼料自給率を高めた飼料給与による肉量、肉質への影響を検証します。 ②乳用牛における稲WCS、玄米の多量給与による産乳量、乳質への影響を検証します。 ③肉用牛、乳用牛における飼料用米給与の普及を図ります。	①肉用牛については、平成27年8月に試験去勢牛の一部を出荷。現在、飼養成績および肉質への影響を検証中。 ②乳用牛については、計画どおり試験は進行している。一部試験終了データをもとに乳量乳質への影響を検討。 ③肉牛経営者協議会、畜産関係団体連絡調整会議、牛群検定組合総会で報告。	◎		①平成28年1月に残る試験去勢牛を出荷し、飼養成績および肉質への影響を総合的に検証する。 ②平成27年9月に試験が終了予定であり、稲WCS、飼料用米の適正給与割合等について検討する。	
5		生稲わらサイレージ調製技術を確立します。	実証試験の材料となる稲わらを収集する圃場を選定した。収集時期(10月)より試験を開始する。	◎		室内試験で得られた有望な添加剤について実証試験を行い、β-カロテンの低下効果を確認する。	
6	肉用牛の生産性向上	分婯間隔目標 繁殖和牛13.5ヵ月 (H26成績:13.8ヵ月)	重点農家6戸を対象に延べ39回の巡回を実施し、繁殖検診、飼料給与に関する指導を実施した。 分婯間隔 13.5ヵ月	◎		引き続き、定期的な巡回指導を実施するとともに勉強会を開催し、農家の飼養管理技術を向上させるための指導を行っていく。	

## (記入要領)

- ・本シートは、県ホームページにて公表する予定です。ただし、「知事または副知事からの指摘・指示への対応」の欄は、公表しません。
- ・「目標項目」および「目標値・目標の内容」の欄は、年度当初に設定した組織目標の該当欄から転記してください。
- ・「進捗状況」の欄は、「目標値・目標の内容」毎に8月末現在の状況を把握して記入してください。
- ・「年度末達成見込」の欄は、レビュー時点での状況により、年度末の目標の達成について  
◎達成可能、○概ね達成できる(80%以上)見込み、△達成がやや困難、×達成は困難 に分類・評価して、記入してください。
- ・達成見込で、達成がやや困難(△)、達成が困難(×)の場合は、「達成が困難と見込まれる原因」の欄に記入ください。  
年度末に達成が見込まれる事項についても、今後の事業推進にあたり課題となる事項等があれば、「達成が困難と見込まれる原因」の欄へ記入してください。
- ・「今後の対応方針」の欄は、全ての「目標値・目標の内容」について、達成に向けた取組およびスケジュール等を記入してください。
- ・部局目標のうち、組織目標ディスカッション(平成27年4月16日および17日実施)にて、知事・副知事から関連する指摘・指示のあったものについては、指摘・指示へ対応するために実施したまたは実施する予定の取組がある場合は、「知事または副知事からの指摘・指示への対応」の欄に「○」を記入の上、取組内容を「進捗状況」または「今後の対応方針」の欄の記入してください。